

## 一括記録請求ファイル(共通フォーマット形式) チェック仕様

➤ 一括記録請求ファイル(集信1)のチェック仕様について記載します。なお、各項目の詳細については表 付録-2に記載します。

### 1. チェック順序

- (1) 表 付録-2中のチェック対象が「ファイル全体」の場合  
チェック処理を打ちきりファイル全体をエラーとして扱います。
- (2) 表 付録-2中のチェック対象が「ファイル全体(取引一回当たり限度額)」の場合  
対象となるチェックについては、エラーを検出した場合でも、ファイル全体のチェックが終わるまではチェックを継続します。
- (3) 表 付録-2中のチェック対象が「ファイル全体」、「ファイル全体(取引一回当たり限度額)」以外の場合、表 付録-2中の項番順に従いチェックを継続します。

### 2. エラーの出力先

チェックタイミングとエラー出力先画面について、表 付録-0に記載します。表 付録-2中の出力先が「画面」となっているチェックはエラーメッセージを画面表示します。また、出力先が「ファイル」となっているチェックは一括記録請求結果ファイル(配信1)にエラー内容を出力します。同ファイルは、画面からのダウンロードにより取得可能です。

表 付録-0 チェックタイミングとエラー出力先画面

チェックタイミングとエラー出力先画面		アップロード方法
		①一括記録メニュー画面にて、「登録」ボタンを選択してアップロードした場合(既存ルート)
仮登録	チェックタイミング	SCKCMN11101(一括記録請求仮登録画面)にて、「仮登録の確認へ」ボタン押下時、および SCKCMN11102(一括記録請求仮登録確認画面)にて、「仮登録の実行」ボタン押下時
	エラー出力先画面	SCKCMN11101(一括記録請求仮登録画面)、 SCKCMN11102(一括記録請求仮登録確認画面)
承認	チェックタイミング	SCKCMN11201(一括記録請求承認待ち画面)にて、「承認の実行」ボタン押下時
	エラー出力先画面	SCKCMN11201(一括記録請求承認待ち画面)
修正／削除	チェックタイミング	SCKCMN11302(一括記録請求仮登録修正画面)にて、「修正内容の確認へ」ボタン押下時、 および SCKCMN11303(一括記録請求仮登録修正確認画面)にて、「修正の実行」ボタン押下時
	エラー出力先画面	SCKCMN11302(一括記録請求仮登録修正画面)、 SCKCMN11303(一括記録請求仮登録修正確認画面)

### 3. エラー単位

チェック対象が「ファイル全体」以外のチェックでエラーが発生した場合のエラー単位について、表付録-1に記載します。

**表 付録-1 エラー単位**

アップロード方法	一部エラー発生時対応区分	チェック対象が「ファイル全体」以外のチェックでエラーが発生した場合のエラー単位
①一括記録メニュー画面にて、「登録」ボタンを選択してアップロードした場合(既存ルート)	-	ファイル単位 (同一ファイル内の全レコードがエラー扱いとなります。)

#### 4. 一括記録請求結果ファイル(配信1)の編集内容

データレコードの編集内容を表 付録-1-1に記載します。

なお、一括記録請求ファイル(集信1)のサブファイル数に関わらず、一括記録請求結果ファイル(配信1)のサブファイルは1件となります。

(1)チェック対象が「ファイル全体」で出力先が「ファイル」のエラーの場合

一括記録請求結果ファイル(配信1)のデータレコードは1件となり、「エラーコード1」「項目番号1」に該当のエラーを設定します。

(2)チェック対象が「ファイル全体」以外で出力先が「ファイル」のエラーの場合

一括記録請求ファイル(集信1)のデータレコードの件数分、一括記録請求結果ファイル(配信1)のデータレコードを出力します。

(3)ヘッダレコードまたはトレーラレコードでチェックエラーとなった場合

一括記録請求ファイル(集信1)のサブファイル内で、1件目のデータレコードに対応する一括記録請求結果ファイル(配信1)のデータレコードにエラー内容を出力します。

※一括記録請求結果ファイルの詳細については、『一括記録請求結果ファイル(共通フォーマット形式)』を参照 付録 P95

表 付録-1-1 一括記録請求結果ファイル(配信1)の編集内容

項目名	編集内容	備考
データ区分	2: データレコード	固定値
種別コード	80: 発生・譲渡通知	固定値
エラー区分	1: エラー 2: エラー(連鎖)	エラー(連鎖): ①一括記録メニュー画面にて、「登録」ボタンを選択してアップロードした場合、同一ファイル内の別レコードがエラーになると、エラーがないレコードについてもエラー扱いとなります。
エラーコード1	表 付録-2中のエラーコードを設定	エラー区分が「2: エラー(連鎖)」の時、設定しません。
項目番号1	表 付録-2中の項目番号を設定	同上。
エラーコード2	表 付録-2中のエラーコードを設定	複数のエラーがある場合、チェック順に最大 2 件まで設定する。また、エラー区分が「2: エラー(連鎖)」の時、設定しません。
項目番号2	表 付録-2中の項目番号を設定	同上。
上記以外	・DENTRANS内で検出したエラーの場合は、初期値を設定 ・でんさいネットで検出したエラーの場合は、通知 IF の値を設定	

一括記録請求ファイル(集信1)をマルチサブファイルで登録し、ヘッダ、データ、トレーラレコードにエラーがある場合に還元するエラー情報の例を、図 付録1に示します。

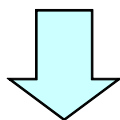
<前提条件>

- 一括記録請求ファイル(集信1)をマルチサブファイルで登録
- ヘッダ、データ、トレーラレコードにエラーがある

<一括記録請求ファイル(集信1)のチェック結果>

ヘッダ順	データ区分	チェック結果
1	1: ヘッダレコード	OK
	2: データレコード	NG
	2: データレコード	OK
	2: データレコード	NG
2	8: トレーラレコード	OK
	1: ヘッダレコード	NG
	2: データレコード	NG
	2: データレコード	OK
-	2: データレコード	NG
	8: トレーラレコード	NG
-	9: エンドレコード	OK

(※1)



<一括記録請求結果ファイル(配信1)の出カイメージ>

データ区分	種別コード	...	エラー区分	エラー情報			
				エラーコード1	項目番号1	エラーコード2	項目番号2
1: ヘッダレコード	80:発生・譲渡通知						
2: データレコード			1:エラー	KCMN1004SE	D01		
2: データレコード			2:エラー(連鎖)				
2: データレコード			1:エラー	KCMN1002SE	D02	KCMN1029SE	D04
2: データレコード			1:エラー	KCMN1005SE	H01 (※1)	KCMN1009SE	T01 (※1)
2: データレコード			2:エラー(連鎖)				
2: データレコード			1:エラー	KCMN1030SE	D03		
8: トレーラレコード							
9: エンドレコード							

ヘッダ順1の  
エラー情報

ヘッダ順2の  
エラー情報

【項目番号の凡例】

- H01 : ヘッダレコードのエラー(記録種別、記録請求日、請求者情報等)
- D01~D04 : データレコードのエラー(取引相手情報、請求金額、記録番号等)
- T01 : トレーラレコードのエラー(合計件数、合計金額等)

※1 ヘッダ順2のヘッダレコード、トレーラレコードに2件以上エラーがあった場合、ヘッダ順2の1件目のデータレコードのエラーは出力されない

図 付録-1 還元するエラー情報の例

5. 保証なし譲渡の確認の流れ

一括記録請求において保証記録「無」が含まれる場合、その旨の注意喚起のメッセージを表示します。

6. 注意事項

- DENTRANSで行うチェックについては、DENTRANS内に保持する情報とのチェックとなるため、でんさいネット側のみに保有する情報など、でんさいネット側でのみ行うチェックも存在します。